

先週の説教要旨

『天に昇り、神の右の座に』

井上隆晶牧師

使徒言行録 1 : 3~11、マルコ 16 : 19~20

❶【神の右の座に着かれた】使徒言行録に「イエスは弟子たちが見ているうちに、天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。」(使徒 1 : 10)とあります。主はあえて弟子たちに天に昇る姿を見せられました。マルコ福音書には「主イエスは、弟子たちに話した後、天に上げられ、神の右の座に着かれた。」(マルコ 16 : 19)とあり、使徒信条でも「天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり」と告白されています。誰も神様の右の座にイエス様が着かれたのを見た者はいませんから、これは教会の信仰告白です。イエス様が神の右の座に座ったというのは、イエス様は父なる神様と同質、同座なる神であり、神の右に座することは、裁きの全権を委ねられた神の国の王であることを意味しています。讃美歌 21 の 337 の 2 番「み国の扉ハレルヤ、今こそ開けハレルヤ、死にうち勝たれハレルヤ、主は帰られたハレルヤ」とあります。元々キリストは天の住人なのです。地上に 33 年間仮住まいされましたが、地上で救いを成し遂げて懐かしいわが家に帰ったのです。だから「神の国の扉」が開いたのです。「お帰りなさいませ！」とあって父なる神と天使たちと聖人たちが凱旋したキリストを迎えられたことでしょう。王の帰還、王が戻られたのです。私たちも同じです。「私たちの本国は天にあります。」(フィリピ 3 : 20) 地上が終わったから、余りとして天に行くのではなく、天から地に送られ、また天に帰るのです。

❷【受肉、十字架、復活、昇天によって人間全体が救われた】昇天はキリストの

救いの最後の業を教えています。よく「十字架によって救われた」という人がいますが、それは救いの一部に過ぎません。キリストの受肉、十字架、復活、昇天というすべての過程によって人間全体が救われるのです。キリストの受肉は救いの始まりであり、十字架によって罪を取り除き、復活によって死を取り除き、昇天によって人間性を天に引き上げ、完全に人間の救いが完成したのです。この一体の神秘によって人の救いは完成します。神は人間にご自分を重ね合わされ、人間の誕生から死までを同じようにご自分も体験し、それらを引き受けて、ご自身の中で癒すのです。私は聖餐をいただいた時に、いつも「ああ、キリストはよくもこんな罪人の所まで降ってきて下さったものだ」と有難く感じるので。聖餐式はキリストの降誕、十字架、復活、昇天の再現です。パンが裂かれることは十字架を意味し、パンが私たちの中に入るとは、キリストが汚れた飼葉桶に横たわったことを意味します。パンと私たちが一体になることによって、地に属する私たちは天に属する者に変えられ、天に引き上げられるのです。実際、ビザンチン典礼では聖餐の最後にパンと杯を高く掲げる行為をしますが、キリストの昇天を意味します。私たちは自分の力では、天国に昇れませんが、降ってこられた方、すなわちキリストと一体になり、彼の肩にしっかりと担がれ、腕に抱かれ、彼によって神の国に連れて行ってもらうのです。

❸【キリストは教会という体で今も共におられる】天使は、弟子たちにいいました。「ガリラヤの人たち、なぜ、天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」(11 節)「なぜ」とは奇妙な問いかけです。天使は過ぎ去った過去ではなく、未来を向きな

週報

日本キリスト教団 都島教会

伝道所設立 1957 年 12 月 1 日 教会設立 2001 年 12 月 2 日

〒534-0012 大阪市都島区御幸町 2-6-17

TEL06-6922-1120 FAX06-6922-1120

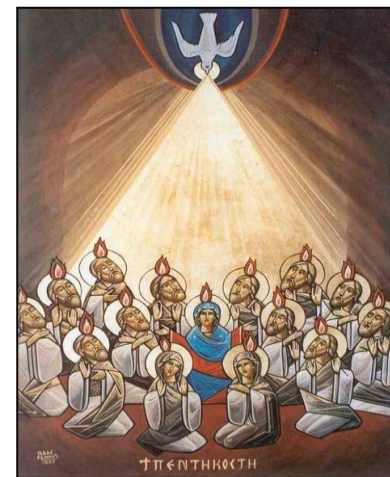
E メールアドレス : miyakoch@eagle.ocn.ne.jp

ホームページアドレス : <https://miyakojima-church1.com>

郵便振替 00920-4-1442 日本基督教団都島伝道所

主任牧師 井上隆晶

2024年5月19日 No.1768



《聖霊降臨》

都島教会の 2024 年度の宣教方針

標語 《会堂建築の準備をしよう》

聖句 「イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません。」(I コリント 3 : 11)

2024 年度の目標

- 1 毎週礼拝を守り、礼拝出席平均 27 名を目指します。
- 2 一年間に一人を礼拝にお誘いします。
- 3 会堂建築のための具体的な準備をします。
- 4 皆で教会を建てる意識を育てます。